

たこ 風の歴史

●貴族や武士が使った風

人類の歴史とともに歩んだ風の歴史は古く、原始的な形にはじまり、各民族の手を経て受け継がれ、はぐくまれてきました。

中国が発祥の地といわれ、その創始説として、紀元前二〇〇年代に中国の前漢の武帝韓信が、敵城との距離の測定器具にこれを利用したのが起こりともいわれています。しかし、ひとくちに風といってもその定義は難しく、木や布地で作られた風は、約二〇〇年前からあり、中国で紙が発明されたのが、西暦一〇五年とされていますから、紙で風がつくられたのは、それ以後ということになります。

日本には、平安時代（七九四〜一九二）

これらがわが国固有の風と一体となり、形態、描形面で日本独特の多種多様な風になっていったのです。

やがて、安永年間（一七七二〜一七八一）

になると風揚げ遊びが大人のあいだにも流行し、中でも奴風が人気の的となりました。

また金銀をちりばめた豪華な錦風が現れたり、本格的な絵模様風の風も作られるなど、その種類も豊富になりました。それまでは各自が手製の風で遊んでいたのですが、このころには風専門の店も登場するようになりました。当時の風は大別すると、武者絵・達磨などが描かれた絵風と、龍・虎・寿など縁起のよい文字があしらわれた字風の二種類がありました。

●伝統ある風を守る

大人も子供と一緒に遊び興じた江戸時代をすぎ、明治時代（一八六八〜一九二二）に

に中国から伝えられました。当時の風は、薦風の形で揚げるには技術が必要であり、貴族のあいだで特權的な遊びとして行われていました。鎌倉時代（一一九二〜一三三三）には、軍用に用いられたこともありましたが、いずれにしても武士階級が手にするだけで、一般庶民にとっては縁のないものでした。

●江戸時代に大流行

その後永い時を経て次第に庶民のものとなり、江戸時代（一六〇三〜一八六七）に入ると、風は子供たちの玩具として定着しました。この時代、さまざまな種類の風が出現して流行を極め、明暦二年（一六五六）には、町中での子供の風揚げ遊びに幕府から禁止令が出たほどの大流行ぶりでした。以後も風の人気は衰えず、全国各地に拡がりました。このような動きの中で、長崎などを通じて中国の細工風やあるいは南方系の風が移入されて、

なると文明開化により社会の様相は一変し、電線や高い建物が現れ、風を揚げるのにむずかしい環境が生まれてきました。その後、大正・昭和時代（一九二二〜一九二六・一九二六〜一九八九）になるとこの傾向はいっそう進み、ことに太平洋戦争後は、交通事情の激化や急速な都市化によって、街角から風揚げの姿は次第に消えざるをえなかったのです。

一方、季節行事からんで全国各地にうまれた郷土色豊かな風も、そうした社会の影響を受けたり、後継者不足の問題がでるなど、衰退をまぬがれることはできませんでした。

しかし、日本各地の風を愛する人々や職人たちによって、そのながい伝統と素朴な楽しみは今でもしっかりと守り続けられています。

静岡県では、駿河風（静岡市）、相良風（榛原郡相良町）、横須賀風（小笠郡大須賀町）、蒲川風（周智郡森町）、浜松風（浜松市）などがあり、今に受け継がれています。